

Video Listening

Digital Arts and Visual Media Landscapes

Corey Fuller

Daisuke Fujikawa

ETERNAL Art Space

Kazuhiro Goshima

Kerim Safa

Koichiro Tsujikawa

Masayuki Azegami

Milian Mori

MUTEK.JP

Ryu Furusawa

Seiichi Sega

scuy(v0id) Hiroki Okamoto

Sumito Sakakibara

Synichi Yamamoto

Toru Izumida

Yuki Kawakami



2024 10/19 sat 10/20 sun

モーショングラフィック&メディアアート映像展

ミライエ長岡 5F ミライエステップ

入場無料

2024 11/1 fri 11/2 sat

オーディオビジュアルライブ&シアター

長岡造形大学 第4アトリエ棟 映像スタジオB

入場無料

デジタルモーショングラフィックとメディアアート 4つのイベント

モーショングラフィック&メディアアート映像展

VideoListening #01

「時間」「音楽と映像の相関」「俯瞰的な視点」をテーマに、VideoListeningディレクター・山本信一が琴線に触れたミュージックビデオ、オーディオビジュアルライブ、TVタイトルバック、文化庁メディア芸術祭で紹介されたアート作品など、ポップからアートまで幅広いデジタルアート作品を横断的に集めた90タイトル以上を、ミライエステップの270インチスクリーンでノンストップ上映します。

2024 10/19 10:30-17:00

2024 10/20 10:30-17:00



スペシャルトーク

時間の採集

五島一浩 × 古澤龍

「VideoListening #01」のスペシャルアーティストトークとして、五島一浩と古澤龍による「時間」をテーマにした映像作品の上映とトークショーを実施します。

2024 10/19 15:30-17:00



VideoListening #02

オーディオビジュアルライブパフォーマンス

Immersive Cube Live

長岡造形大学第4アトリエ棟に新設された、3面投射が可能な映像スタジオBにて、国内外の電子音楽やデジタルアートの分野で活躍する3組のアーティストによるオーディオビジュアルライブを実施します。

2024 11/1 18:00-20:00



映像インスタレーション

Immersive Cube Theater

国内外から集められた作品をスタジオ向けに最適化した没入型作品と、第4アトリエ棟映像スタジオBのために学生が制作した作品をあわせて公開します。

2024 11/2 10:00-20:00



VideoListening

デジタルモーショングラフィックの黎明期から活動を続けるメディアアーティスト・山本信一（長岡造形大学デザイン学科教授）と長岡市による共同プロジェクトです。プロジェクションやイマーシブなど最先端の映像表現から、ビデオアートのレジェンド的な作品、そしてポップカルチャーの系譜を踏むデジタルアートまで、幅広く紹介し、ここから新たな作品も制作・発表していきます。電子音楽やオーディオビジュアル、ミュージックビデオやモーショングラフィック、空間や都市に拡張する屋外広告映像や没入映像施設、実験映像やビデオアート作品としての表現の研究まで、ポップな作品からアートの系譜、コマーシャルからメディアアートまでを横断的に扱います。多様なアプローチを通じ、デジタル・クリエイティブの可能性を探る場として、継続的に新しい視点を提供する拠点となることを目指しています。



山本信一 Synichi Yamamoto

メディアアーティスト クリエイティブディレクター 長岡造形大学デザイン学科教授

90年代からメディアアートとしてのビデオアートに取り組み、映画の手法とは違う「エレクトリック音楽の延長という映像」というアプローチで、国内外で数多くの作品を発表。近年は日本科学未来館との共同研究でドームと球体の2つの映像作品を発表して以降、科学概念や哲学の可視化などをテーマに空間的な映像作品を発表してきている。スクリーンメディアだけでなく、オーディオビジュアルパフォーマンス、都市回遊型XR、公共空間でのインスタレーション等、映像を都市や空間に拡張する作品が多い。21年に手がけた「新宿東口の猫」では独特のユーモアで国内外で多くの反響を得て、都市の屋外映像を使ったソーシャルデザインとして17の賞を受賞した。

<https://www.omnibusjp.com/supersymmetry/>

作品協力



モーショングラフィック&メディアアート映像展 ミライエ長岡ミライエステップ

「時間」「音楽と映像の相関」「俯瞰的な視点」をテーマに、国内外から厳選した90本以上のモーショングラフィック&メディアアート映像展

オーディオビジュアルの現在

Noesis: 可視化する哲学



日本科学未来館でプレミア公開され、その後モントリオール、メキシコ、ベルギー、サウジアラビアなどで公開されたオーディオビジュアル作品。「地球の中からの風景」や「無に包まれる」といった科学的・哲学的なコンセプトを可視化し、ドーム、地球ディスプレイ、シアター、VRといった多様なプラットフォームに展開される立体的な映像存在が、作品のもう一つのコンセプトとなっている。

第22回文化庁メディア芸術祭で審査員会推薦作品。

MUTEK.JP の記録



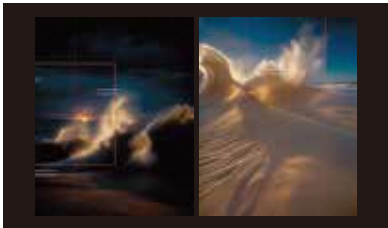
電子音楽とデジタルアートの国際的なフェスティバルとして25年の歴史をもつMUTEK(モントリオール)。そのMUTEKのグローバル展開におけるアジアでの拠点として2016年に設立されたMUTEK.JP。デジタル・クリエイティブの開発と普及を目的とした国際的な芸術文化活動を行うその活動記録であるアニュアルムービーをEdition1 から9年間分を一挙に上映する。

ETERNAL Art Space の記録



MUTEK.JPが手がける、イマーシブなデジタルアート作品を体験できる新プロジェクト「ETERNAL Art Space」。2020年羽田空港特設スペースでの文化庁メディア芸術×文化資源分散型ミュージアムからはじまり、2022年パナソニックセンター東京Aスタジオの巨大なスペースで、国内外のアーティストにより公開された空間的な作品の記録。

#beatgraffiti 104 to 107



Immersive Cube Liveにも参加するscuy(v0id)氏のこの作品は、従来のAI作品に見られる場面の飛躍や予測不能な展開とは異なり、繰り返されるビートに合わせたストロークな反復が、緻密にコントロールされた心地よい映像を生み出している。生成された波の動きが、scuy(v0id)氏の音楽とシンクロし、統制された映像はAIとアーティストのコラボレーションともいえ、多くのAI生成作品とは一線を画している。

都市の中に拡張する映像

新宿東口の猫



本映像展VideoListeningのディレクター山本信一が2021年に手がけ、公開後、独特なユーモアで世界に拡散し、単なるサブライズ屋外映像広告としてではなく、「猫がそこにいる」という設定のクリエイティブでADC賞、文化庁メディア芸術祭、など広告とアートの国内外で17の賞を受賞し、公開後3年経った現在も、ランドマークとして世界中から集まる「新宿東口の猫」の全バージョン記録を上映する。

ウメダのウドンちゃん



新宿東口の巨大猫の後ろを追う形で、3D屋外サイネージに動物キャラクターが多く採用される中、新たな表現方法を探求した作品「ウメダのウドンちゃん」。メディアアーティストの山本信一がイラストレーターのmakomoと組んで大阪・梅田で企画したこの作品は、ユニークなキャラクターと3Dサイネージの技術を融合させた、新しい視覚体験を提供する。

SHINJUKU CREATORS FESTA の実験



新宿区主催する都市型アートイベントの「新宿クリエイターズ・フェスタ」プログラムとして、ユニカビジョンに代表される新宿エリアにある4つの大型ビジョンで展開したアートビジョンプロジェクトの記録。2013年から都市空間を舞台にARや音楽家、アーティストなど様々なコラボレーションを行い、その取り組みは、後の同エリアに新設されるクロス新宿ビジョンの「新宿東口の猫」へと繋がった。

Colure 池袋西口公園再開発



新しい池袋西口公園のGLOBAL RINGのために制作された常設アート作品。NYのアンビエントレーベル12kのサウンドアーティスト、コリーアラー氏とのコラボレーションで池袋の喧騒の中にある円形の公園のエリアに上質な静寂の空気を作り出している。人々が行き交う公共空間の作品として、それぞれの人や自然現象など、様々なものの個別の周期が交差し干渉しあって「現在」を作り出すことをコンセプトにしている。

音楽と映像の相関

Cornelius 火花



モーショングラフィックの普遍的テーマである音楽の可視化について、音楽と映像の相関を探求する辻川幸一郎氏とCorneliusとのプロジェクトの中から3本を紹介。2023年の「火花」は音楽に寄り添い、ビデオアートとして昇華されたミュージックビデオ作品。

Cornelius 「あなたがいるなら」



辻川幸一郎氏の音と映像の相関の取り組みの中で、そのコンセプトを明確に追求した作品。すべての音に対して、夜の部屋にあるオブジェクトが一つずつ対応し、音楽と映像が驚異的な精度でシンクロしている。音楽の空間的な広がりが音の細かいニュアンスが、単なるビジュアルの補完ではなく、音楽の構造を深く解釈して具現化しており、映像そのものが音楽の一部として機能している。

Cornelius - 「Surfing on Mind Wave Pt2」



音楽と映像の相関で紹介する辻川幸一郎氏とCorneliusの3本目は、チューブライドするサーファーのワンショットの主観で、移り変わる波の風景のどこかが、音楽のほぼすべての音の変化要素にシンクロしてる実験的な作品。途切れることのないメロディに合わせ、波の動きや水滴が映像と運動し、音の変化が視覚的に表現されている。

YAKUSHIMA TREASURE ANOTHER

LIVE from YAKUSHIMA



屋久島の原生林で行われたコムアイとオオルタイチのライブパフォーマンスを、ウェブブラウザでインタラクティブに視聴できる作品。フォトグラメトリで捉えた色彩や、深度センサーで読み取った動き、360°マイクによるサラウンド音響など、複合的なデータを統合し、通常のカメラ映像とは異なる体験を実現。肉眼では捉えられない要素を可視化することで、パフォーマンスの映像記録にとどまらず「魂の視点」を表現している。まさに演奏者の中で視点が目撃する空間の記録とも言える作品。

第25回文化庁メディア芸術祭受賞作品。

2024 10/19 sat 10:30-17:00 10/20 sun 10:30-17:00

Ambient

Corey Fuller + Break Ensemble



NYのアンビエントレーベル12KからリリースされたCorey Fullerのアルバム『Break』をアコースティックアンサンブルで完全再現した『Break Ensemble』と山本信一の渋谷ストリームホールで行われたオーディオビジュアルライブの記録。演奏信号をフィードバックさせながら映像を生成するシステムや、MIDI鍵盤に映像を割り当て、サウンドに応じて映像を即興演奏するシステムを構築。アコースティック楽器と映像が有機的にコラボレーションする独自のライブパフォーマンスを実現。

Sanctuary @ ALTERNATIVE KYOTO



京都市、向日神社で発表した作品。日没後、神社の静かな空間にゆっくりと変化する鮮やかな風景が広がり、温かく癒しのアンビエント作品を展開した。デジタルアートファンだけでなく、家族連れや地域の人々も訪れ、静かでゆったりとした時間を楽しむ場となった。

Public Visuals Showcase



オーディオビジュアルの先鋭的なイベントをキュレーションしつつ、自らもアーティストとして活動するPublic Visualsの泉田徹氏によるプログラム。ドイツの名門エレクトロニカレーベル『RASTER』のアーティスト、Milian Moriとの『方丈記』をテーマにしたオーディオビジュアルショーの記録を、VideoListeningのために新たに書き出し再編集した。



Milian Mori + Toru Izumida

ループとメタ視点

浮楼 FLOW / Sumito Sakakibara



ループする映像を通じて鳥の視点や神の視点、遠観する感覚呼び起こすモーショングラフィックとして秀逸な榊原澄人氏による浮楼。日々の営みが平穏に繰り返される街の四季を、固定した高い視点から見おろす構図。見続けているとやがてそのなかに、ある女性の成長のドラマが忍ばれていることに気づく。人生の時間を静かに見る作品。

第9回文化庁メディア芸術祭大賞作品。

Kerim Safa / Machines



オランダを拠点に活動するアーティストの『Machines』は、デジタルで手作業のように丁寧に制作されたアニメーションを通じ、相互に連結された機械を用いて、永続的かつ循環的なシステムを探索している。プログラムから描かれるパターンや、刻々と変化するループアニメーションは、見る者に俯瞰的で禪に似たメタ視点を感じさせる。

特撮テレビタイトルでの実験：

牙狼〈GARO〉シリーズの世界



©2010-2024 雨宮慶太 / 東北新社

2005年から2017年までに山本信一がタイトルバックを手がけた特撮テレビシリーズ『牙狼〈GARO〉』では、原作・総監督の雨宮慶太氏のコンセプトを忠実に守りつつ、物理シミュレーションやCGソフトを駆使した先鋭的な映像表現の実験を行ってきた。これらの実験的な映像技術が独自のトーンを形作り、作品の重要な要素となっている。今回は、山本信一が手がけた『牙狼〈GARO〉』シリーズのタイトルを集めて紹介する。



Kerim Safa



Kazuhiro Goshima



Ryu Furusawa

クリエイター作品

Pouring abstraction / Yuuki Kawakami



MVやイベント、映画タイトルなど多くを手がけ、4年連続で「映像作家100人」に選出されているモーショングラフィック作家・河上裕紀によるプライベート作品。「音から連想されるビジュアルイメージ」をテーマにしたこの作品は、抽象的なビジュアルイメージが、Pouring（流し込み）というアナログ技法からインスパイアされている。流し込まれた絵の具が混ざり合っって見えるマチエールのように、音を流し込まれたオブジェクトがどのような動きや質感を見せるかを視覚化したモーショングラフィック作品。

ENCROSURE / Yuuki Kawakami



「音の空間」をコンセプトにしたインスタレーション作品。音楽が持つ空間と時間を再現し、もとはHMD（ヘッドマウントディスプレイ）対応の没入型作品として制作された。音と音の「間」から生まれる「巨大な空間」に没入し、視聴覚を通じて音楽に包み込まれる体験を提供する。今回は映像として上映されるが、HMDを通じて通常の視覚や聴覚では得られない深い音楽体験を目指している点特徴。

NEWVIEW AWARDS 2018でKALEIDOSCOPE賞を受賞。

Extraordinary / Daisuke Fujikawa works



CGクリエイター藤川大輔の作品集。錯視、不可能立体、ループをテーマに、サイコロやドミノ倒しなどの物理シミュレーションを取り入れたVFXショート動画を、学生時代から自身で独学したBlenderを駆使して制作。日常の風景に非日常的な要素や驚きを加え、独自の視覚体験を生み出すこれらの作品は、SNSで発信され、大きな話題を呼んだ。

スペシャルトーク

時間の採集

五島一浩 × 古澤龍

スペシャルアーティストトークとして、五島一浩と古澤龍による「時間」をテーマにした映像作品の上映とトークショーを実施します。

Immersive Cube Live

2024 11/1 fri
18:00-20:00

3面投射可能なイマーシブ空間で、国内で活躍する3組の最先端オーディオビジュアルライブパフォーマンス。



Masayuki Azegami

音楽家、ビジュアルアーティスト、デザイナー。国内外でのライブパフォーマンスをはじめ、楽曲リリース、アート作品の展示・サウンドデザインなど多数の音楽/映像の制作を行う。環境音を取り入れ、カオティックでありながら陶酔的なリズムを生み出す、感情を揺さぶるようなサウンド表現を得意とする。主な出演にMUTEK.JP、Public Visuals Tokyo X TDSW、Hypergeekなど。

2024 11/1 18:00-18:30



Seiichi Segal

ジェネラティブ技術や物理シミュレーションを取り入れ、フォトリアルとは一線を画す抽象的なアプローチでハイエンドなモーショングラフィック作品を多数手がける。自然現象を模倣したアルゴリズムを駆使し、WIRED Design Generatorのビジュアル開発にも参加。クリエイティブレーベル「superSymmetry」に所属し、科学データの可視化や哲学的テーマの探求、伝統文化とのコラボレーションを行う。国内外のアートフェスティバルにも積極的に参加しており、これまでにカナダ、メキシコ、ベルギー、サウジアラビアなどで作品を発表。現在はPARTYに所属し、東京工科大学および長岡造形大学で非常勤講師を務める。

2024 11/1 18:45-19:15



scuy_v0id Hiroki Okamoto

1987年愛知県生まれ。2013年情報科学芸術大学院大学修士課程修了。建築、写真、グラフィック、プログラム等様々なバックグラウンドを持つメンバーから成るデザインコレクティブv0idを設立。映像制作、インスタレーション展示、インテリアデザイン、ファッションデザイン等領域を横断する活動を行っている。

scuy名義では私たちを取り巻く環境、空間からインスピレーションを得て、Audio/Visualを融合させた作品を制作している。SNS環境においては、グラフィティアートを物理的な公共空間から現代の公共空間であるソーシャルメディアに拡張した#beatgraffitiと呼ぶAudio/Visualメディアを組み合わせた表現を生み出している。近年ではA/V Liveパフォーマンスを行い、活動空間を広げている。

2024 11/1 19:30-20:00



Intercity-Express

音楽家・大野哲二によるサウンド/ビジュアルプロジェクト。90年代半ばより都内を中心にDJとしてのキャリアを経た後、本格的に楽曲制作をスタートさせる。音楽的な文脈としてハウス・テクノ・ノイズ・エレクトロニカを通過してきたサウンドと、直感的なジェネラティブデザインやカラーパターンを軸としたビジュアルがシンクロし、主に海外を中心にライブを行う。主な出演として「MUTEK (カナダ、メキシコ、スペイン)」 「Scopitone (フランス)」 「HPL (ロシア)」 「AVA (北アイルランド)」 「L.E.V (スペイン)」 など。ソロ作品の他に、カナダのビジュアルアーティスト「Push 1 stop」との共作や、メディアアーティスト山本信一とのフルドーム作品など、コラボレーションも多数。

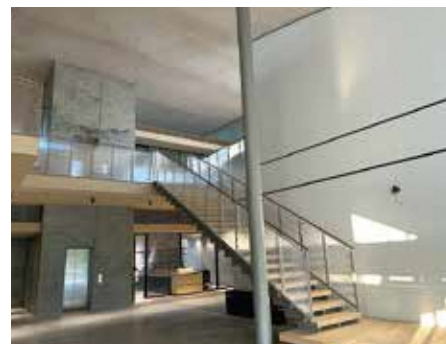
Immersive Cube Theater

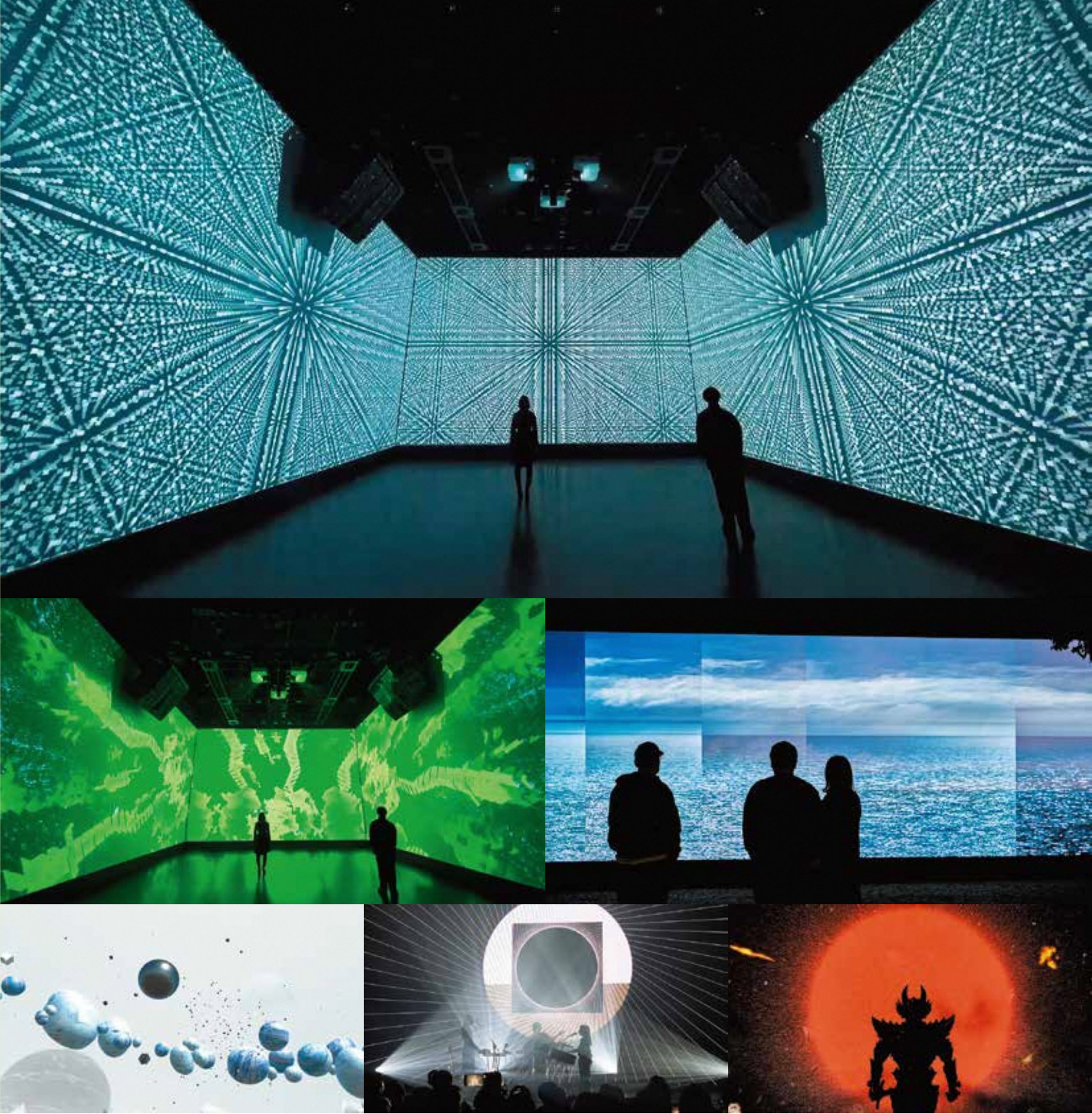
2024 11/2 sat

10:00–20:00

長岡造形大学の新校舎（第4アトリエ棟）に新設された、
3面投射が可能な映像スタジオBにて、
11/1は国内外の電子音楽やデジタルアートの分野で活躍する
3組のアーティストによるオーディオビジュアルライブを実施します。
11/2は、空間のために集められた国内外のアーティストの作品と、
それに向けて学生が制作した作品を終日上映する
Immersive Cube Theater を開催します。

第4アトリエ棟 映像スタジオB





アクセス

ミライエ長岡： JR長岡駅から徒歩 5 分 〒940-0062 新潟県長岡市大手通 2 丁目 3 番地 10

長岡造形大学： 〒940-2088 新潟県長岡市千秋 4 丁目 197 番地



公立大学法人
長岡造形大学
Nagaoka Institute of Design



お問い合わせ：
長岡造形大学入試広報課
Tel. 0258-21-3331